

こんにちは！スタンフォードでポスドク 2 年目の終わりに近づいている鄭です。この半年は何かと目に見えない変化が大きく、学生の延長としてのポスドク生活から独立してラボを持つことを意識するようになる転換点だったように思います。とはいえ何か大きなきっかけがあったというよりも、様々な出来事の積み重ねによるものだと感じるので、その気持ちの流れを完全に説明するのは難しいです。主な事柄として思い浮かんだことをここに書き留めておきます。

まず、ポスドクで取り組んでいる研究の形がだいぶ定まって来て、独立ラボで自分がどんなプロジェクトを立ち上げるか、それに向けてポスドクの間追加でどんなトレーニングを積みたいか、以前よりも確信を持って考えることが出来るようになりました。ポスドクを始めた頃はもっと自分の知らないスキルを手当たり次第に学ぶことに意識が向いていたので、その時と比べるとより具体的な戦略を持って研究計画を描くことが出来るようになりました。それと並行して、ポスドクの研究自体も手当たり次第に広げるのではなく、①ポスドクの間成果となる見込みのある研究と②自分の将来の研究に役立つ知見が得られる研究の 2 点を中心に方向性を考えるようになりました。

研究をより効率的に進めて時間的・精神的な負荷が軽減することで、研究以外に自分のキャリア形成に役立つ活動、具体的には DEI (diversity, equity, and inclusion) 関連の活動にもっと多くの関心を割けるようになりました。ポスドク 1 年目では、Small Science Group というちよつとした活動に参加していました。これは週 1 回 1 時間コミュニティカレッジの学生数人に個別指導するボランティアで、スタンフォードの別のポスドクが主導するプロジェクトにメンターとして参加した形でした。2 年目となる現在は、Certificate in Critical Consciousness and Anti-Oppressive Praxis (CCC&AOP) というもっとインテンシブなプログラムに参加しており、ここでは週に数時間ワークショップを通して DEI への理解を深めるのに加え、参加者が各自で何かプロジェクトを立ち上げています。私は研究室で実験をする人々の責任感と自尊心を高める一貫として、実験で使用するプラスチックの消耗品を減らすための意識改革と行動改革のための活動に取り組んでいます。このプログラムに参加するまで、自分がイニシアティブを取って周りを巻き込んでいくところはあまりピンときていなかったのですが、この活動を通して「独立ラボを持った時にどんな活動をしていくか」というところまでより具体性を持って思い描けるようになったと思います。

それと並行して、PI に属するメンティーではなく、自分自身という個の研究者としての責任感と存在感を以前より感じるようになりました。具体的には、12 月に招待された学会で PhD 研究を発表した

ことをきっかけに総説論文執筆の依頼が来て、初めて単独著者での論文を投稿しました。単独著者であるのをいいことにだいぶ好き勝手に新説を提唱してみたので、果たして本当に出版されて業界に受け入れられるのか疑問ですが、今は名だたる先生たちもかつてはきっとこんな不安な気持ちで論文を出していたのだろうと思い自分を勇気づけています。また、ポスドク研究の合間を見つけてはサーバーに眠っていた PhD 時代のデータを掘り起こしてはまとめていたのですが、ようやくそれが論文にまとまって投稿することができました。いずれも現在査読待ちなのですが、できるだけ吉報を祈っています。ポスドク研究の一つも現在査読中で、7 月中に改訂版を再投稿することを目指して co-first author のポスドクと追加実験にいそしんでいます。また、それとは別テーマのポスドク研究に関する総説論文も書いているのですが、下書き第一稿を PI にだいぶ叩き直され、修正版を上げる時間とモチベーションが維持できずにちょっと後回しになってしまっています。PhD 時代の PI と今の PI でだいぶ文章のテイストが異なるのもあって、PhD での成長を通して少しずつついてきた自信が喪失しそうになりました。こっそり ChatGPT に書いてもらった文章もダメみたいで (PI 曰く冗長すぎるとのこと)、執筆は決まった正解が無くて難しいと改めて思いました。

あと細々としたこととしては、アメリカ化学会生物化学部門の Young Investigator Award 受賞 (<https://www.divbiolchem.org/news/wau2hu493s71y5b1u16h1s9hhzf8y0>)、Leading Edge Fellow への採択 (<https://www.leadingedgesymposium.org/>)、グリーンカードの取得など、嬉しい出来事が立て続けに起こりました。それに付随する学会とシンポジウムでの発表、そして別途依頼される講演等の予定が相次いでわりと忙しく、PhD 後期とポスドク初期に感じたような転換期をまたひとつ感じています。スタンフォードという環境は皆が活発で、研究発表以外でステージに立つ機会も多いように思います。果たして自分の時間管理とタスク管理はこれで正しいのか、多種多様なオブジェクティブに囲まれつつも最終的なゴールが分からないまま泳ぎ続けているような頼りなさをたまに感じます。このマルチオブジェクティブなポスドク生活が最終的に吉と出るか凶と出るか、これからも報告書を通じて記録していきたいと思います。

船井財団には多方面にわたってご支援いただき、いつも感謝しております。応援してくださる方々がいるのは一番のエネルギー源だとつくづく思います。ここまで読んでいただきありがとうございました。